

大学受験を目指す生徒とその保護者のための進学情報紙

月刊 トーシンタイムズ
第17巻第9号通巻163号 (2003年12月10日発行)

Toshin Times

2003.WINTER センター試験直前特集号

苦手科目はあと20点伸びる!

目標は高く。

夢は大きく、



東進イメージキャラクター
鈴木杏

徹底検証

あと20点伸びる!

センター試験まであと2ヵ月、苦手科目は

CONTENTS

- センター試験直前特集 残り一ヵ月、必勝の戦略とは? 02
- 東進自慢の講師陣による珠玉のメッセージ センター試験残り一ヵ月の学習アドバイス 06
- 輝く東進の先輩に聞きました。夢を追う人 12
- 東進のOB・OGがナビゲートする 憧れのキャンパスクルーズ 13
- 第15回 国際基督教大学 え?あの先生が、そんなこと? 15
- 実力講師 波瀾万丈記 20
- 第二十回 内田和美先生(現代文) 20

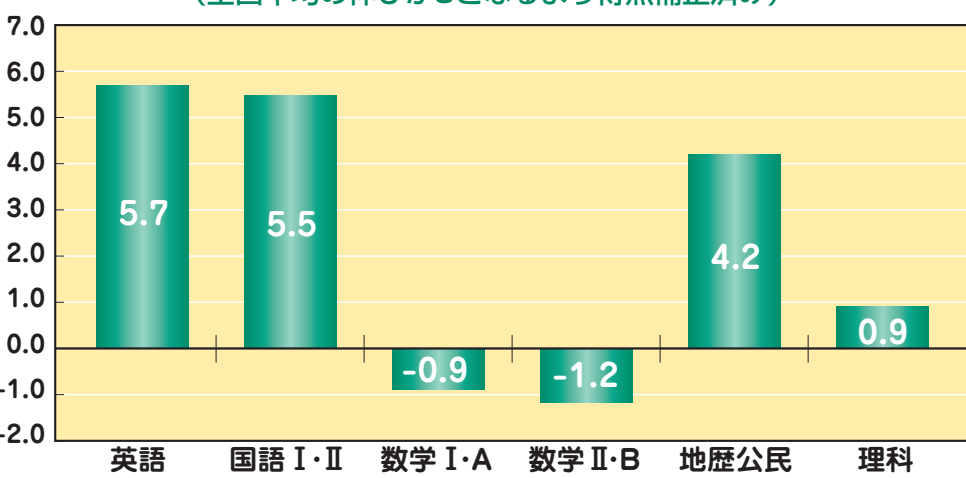
現役合格者の、センター最終プレ入試(2002年12月23日実施)と実際のセンター試験での成績の伸びを示したものである。これは12月から1月までの1ヵ月間に、「受験生全体の平均の伸びよりもさらに何点伸ばしたか」をグラフにした。

国立大学に現役合格した集団だけに、全体的に成績を伸ばしているようだ。受験生全体が最も伸びるこの直前期(12月1月)で、これだけ伸ばすのは容易ではない。教科別に見ると、数学がI・A、II・Bともに1点前後微減。英語と国語が5点強と最も伸びている。ただ、100点満点で換算すればこの二教科は半分と見るべきなので、最も伸びているのは地歴公民であるといえる。地歴公民は、この冬が得点を大幅アップさせる最後のチャンス。学習が

センター試験まで残り一ヵ月。受験生にとって、これらの過ごし方が合否を左右するといっても過言ではない。そこで今月の東進タイムズでは、「何をどこまでやるべきか」という受験生が最も知りたい問いを説明すべく、2003年度の合格者がこの直前期に何をどのくらい伸ばしていたのかを徹底分析した。

「関連記事2〜3画

資料1 国公立大学現役合格者、残り1ヵ月の科目別点数の伸び(全国平均の伸びが0となるよう得点補正済み)



センター重視の一般国立志願者はこのままスパートをかけよ! 二次重視の難関国立は現状を維持しつつ二次対策へ!

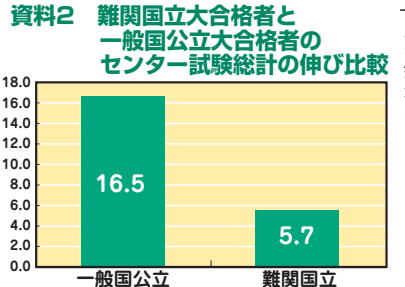
次に、合格大学別に伸びを見たところ、実に興味深い結果が出た。センター試験の合計点における一般国立大合格者の伸びは16.5点。一方、難関国立大合格者の伸びは5.7点であり、約3倍もの差があった。

この結果から、まず、センター試験重視の国立大志願者は最後まで全力でセンター試験対策に注力しなければならぬということがいえる。配点の高いセンター試験で高得点を狙い、最後の詰めを行おう。

また、二次試験重視の

分析手法
今回の分析では、2002年12月23日に実施した「センター最終プレ入試」と2003年1月18・19日実施のセンター試験本番の得点(自己採点を比較し、その差を1ヵ月の伸びとした。センター試験直前の1ヵ月間の成績の伸びを知るデータは東進独自のもの。

ただし、両試験のレベル(平均点標準偏差)が異なるので、科目ごとに「センター最終プレ入試」の得点を補正した。例えば、英語でセンター最



終プレの平均点にあたる122点、センター試験本番でも平均点にあたる126点だった人の伸びは0とする。だから、ある受験生が伸びているも、受験生全体の伸びと同じであれば、その受験生の伸びは0となる。

なお、ここでの「難関国立大」は旧七帝大と四大学連邦、国立大学医学部等に合格したグループ、「一般国立大」はそれ以外の国立大学に合格したグループを指している。

P253へ続く